

特定行為に係る地域標準手順書(大阪府医師会版)

褥瘡または慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去

【当該手順書に関する特定行為の対象となる患者】

在宅で訪問看護を受けている患者または施設入所者で、褥瘡または慢性創傷のうち以下1～4に該当する場合

1. 関節・会陰部・顔以外の部位に発生した褥瘡または慢性創傷
2. 壊死組織に血流が認められない褥瘡または慢性創傷
3. 感染徴候が認められない褥瘡または慢性創傷
4. 著しい虚血肢以外の下肢の褥瘡または慢性創傷

※ただし、出血や痛みがある場合は中止すること

※必要に応じて医師の立ち合いが求められる(オンラインにより立ち会う場合もある)

【看護師が特定行為を行うことができる患者の病状】

- バイタルサイン、全身状態、病状が平常時と変化がない
- 出血傾向がない
- 感染徴候がない

病状の範囲外

不安定・緊急性あり

担当医師に直接連絡し、指示をもらう

病状の範囲内

安定・緊急性なし

【診療の補助の内容】 褥瘡または慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去
(壊死組織除去後に創部洗浄を行う)

【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- 意識状態とバイタルサインに変化がない
- 患者が抵抗的ではない
- 褥瘡の部位(関節、会陰部、顔以外の部位)
- 関節腔、体腔に至っていない、原則体表面積の1%(手掌のサイズ)以下、著明な排膿がない
- 実施後の著明な出血や強い疼痛がない

当てはまらない項目が1つでもある場合は、担当医師に直接連絡し、指示をもらう

※ただし、出血や痛みがある場合は中止すること

【その他:患者の状態として注意が必要な内容】

【特定行為を行った後の医師への報告の方法】

<電話連絡について>

- 事後、病状等に変化がある場合のみ必要
- 事後、病状等の変化の有無に関わらず必要

<情報共有方法>

- 事後、できるだけ早く以下の方法で速やかに連絡(該当するものに○)

[医療介護情報共有システム・FAX・メール・その他()]